

南无法種尊佛

南无成首佛

南无法種尊佛

現在南方一百五佛名

佛言若善男子善女人聞

南无寶藏莊嚴佛

信吾道眼執持禮拜者於現在世中功德具足
遂得五法一者除去世吾我常值佛世二者獲
尊世轉輪聖王三者遂得總持執御經典誠信无
量四者成卅二大人之相至得佛道眾行備忘
五者逐五神通无所障礙是為五事若有女人
人聞此佛名至心敬禮則離女身生淨佛國
主神通具足能却七百萬億劫生死之罪

南无南方純寶藏佛

南無旃檀德佛

「落ち穂拾い記」

(48)

敦煌写経

図版②巻子の題簽

唐初人寫佛說佛名經殘卷 敦煌石室本
乙丑孟秋重裝古喬記

図版③本文と細字部分の大きさの比較

吾道眼執持得五法一者

自在杖樂



図版①『木簡集英』

西域出土の木簡や残紙・写経は、1・2世紀から3・4世紀の古代の人々が墨と筆を用いて書いた実用書である。小さな木片や破れた紙片にのこる墨書は、古代の人々の生活に根付いた書の息吹を伝えている。石刻文字の碑文などとは異なり、書学の手本として特別な魅力を秘めている。学生時代には、敦煌出土の木簡をまとめた拡大本の『木簡集英』(図版①)等を手本にして臨書したものである。こうした西域出土の書跡資料を最初に手にしたのは、1980年代頃であろうか。香港の友人から数本の写経の残巻を譲り受けた。巻頭、巻尾が欠けた80行余りの残巻であるが、丁寧な巻子に装され、巻止めには、「唐初人寫佛說佛名經殘卷 敦煌石室本 乙丑孟秋重裝古喬記」と書かれた題簽が付されてあつた(図版②)。この残巻に惹かれたのは、4行目の「五十佛名」の下から10行にわたり書かれてあつた細字である。5ミリほどの大きさの細字は、敦煌写経では目にしたことがなかつた。この160字の小字も本文の佛名經の文字と同じ書風である(図版③)。旧蔵者の題簽に唐初人の書とされているが、筆勢や筆画、文字の結構等には、唐以前の六朝時代の趣が感じられる。横画から縦に移る転折部分の動きや、起筆の力強さ、上部が広く下部がやや狭い文字の結構等は、隋や北齊時代の佛經摩崖題字に通じる所がある。右頁の主図版は、この写経の原寸図版である。

伊藤滋(書斎名・木鶴室)

書道芸術院 令和の群像 (2023)



及川 豊流

「継続は力、縁に感謝」 えにし

原稿の依頼を戴き、まだ先のことだろうと安心していたので、当事者となり、何を語ろうか随分と悩んだ。が、振り返れば、書歴40年を越えている。自分の辿った道の一端を述べて、稿の任を果たしたいと思う。

小学5年の時、通っていた小学校に書道を特技とされる先生が赴任され、書道クラブが発足した。祖父の勧めもあり入会した。

この先生が後に私を書道の道に誘って下さった、恩師山内北舟先生である。この出会いがきっかけで宮城野書人会、師、故長井清流先生を知ることになるが、直接の師事は2年後のことだった。そのクラブの活動内容が主として、清流師が主宰されていた小学校書芸誌に競書出品し勉強することにあつた。毎月昇級する楽しみと、同年に行われた水道週間コンクール入選、町内書初席書会準大賞、県書写部長賞受賞と続き、習字が楽しくなっていった。

中学生になり習字を続けたい一心で(近隣に書塾無く遠方に通っていた同級生1名

だけ。今思うと不思議)個人出品にて競書を送ったところ、疑問に思ったのか、師は添削の外に支部は? 師匠は?との手紙とともに返送して下さった。続けたい旨を伝えると師は快く小学書芸特待生、一般部初段に編入して下さった。これが師との出会いである。それからは両方に出品させて戴いた。高校になると、院展出品の機会を得た。4回展では優秀に入り、見学に上京したことが思い出される。それから通信での指導が約10年続いた。かな臨書においては実兄であられた加藤翠柳先生添削の機会にも恵まれた。先生の指導は、未成年にはレベルが高く関戸本1首同課題を3年書き続けたこともあったが、貴重な経験だった。師は実際書いているところを見ないと上達は難しい、是非自宅に来るよう勧められた。

平成2年、仕事が仙台になり、7月から師の元に通うことになり現在に至っている。それからは稽古日は休まず出席し、講習会があると受講し、各種書展にも積極的に出品した。お陰様で多くの先生方にも出会い、書友も出来た。有難い限りである。



第74回書道芸術院展「朝吹英和の句」

及川 豊流書

墨書のニーズが激減している昨今、両先生、諸先生から戴いた言葉を胸に、書の魅力を伝えられればと切に思う。

平成18年、師亡き後は、御夫人の四枝先生に御指導を戴いたが、諸事情でホームに入居されることになり、今では私が四枝社会長として後継を預からせて戴いている。身が引き締まる思いだ。

書のひろば

理事長 下谷洋子

第75回記念全国学生書道展 搬入・審査終了

第75回記念全国学生書道展は、10月24日に作品搬入を終え、審査は10月31日～11月5日にかけて行われました。

全国から寄せられた半紙、半切½部門の作品は、半紙が300点ほど減少し、半切½は若干増えました。団体数が減少したのは残念でした。

A賞は31日の事前審査を経て、1日選考委員6名により決定しました。

半紙部門から100名、半切½部門から50名、B賞以下特別賞に両部門合わせて260点が入賞し、来年2月東京都美術館に展示されます。

2月10日の表彰式は、昨年までの帝國ホテルから浅草橋駅前のヒューリックホールへと代わります。当日午前中は展示会場にて大賞受賞者による席上揮毫会を行います。昨年同様展示会場内でのワークショップは翌11日の午前に、また同時刻になりますが、今日は記念展のため、指導者対象の講習会も都美にて開催いたします。会場変更や多彩な行事のため、日程を事前に確認して臨んで下さい。

日程

第75回記念全国学生書道展出品統計

() 内前回展

	団体数	出品点数	出品人数
半紙の部	145 (154)	10,430 (10,744)	5,326 (5,655)
半切½の部	102 (106)	2,492 (2,394)	1,851 (1,862)

毎日書道会理事総務会開催

11月14日如水会館にて
主な議題

☆第75回毎日書道展

・主要役員

実行委員長 室井玄聰
審査部長 薄田東仙

総務部長 渡辺美明
陳列部長 大森哲

・各展実行各委員長(本院関係)

東京展 特別展示として「墨魂の群像」を開催する。第50回「墨魂の巨匠」、第70回「墨魂の昂」に続く企画。この2展に登場した先人は除き、平成末までにご逝去された物故作家48名の代表作を展観。

・第75回毎日書道展特別展示開催

東北仙台展 飯沼恵鳳
四国展 川島舟錦

令和5年度書道芸術院創立記念日 講演会 吉田加南子講師

昭和22年11月23日に創立された書道芸術院は本年77歳の喜寿となりました。今年は午前中の理事会後、昨年に引き続き上野精養軒にて開催され、今回は

本院関係は、近詩 加藤翠柳。
芸術院は本年77歳の喜寿となりました。吉田先生は詩人で翻訳者でもあり、多数の著書も刊行されています。何よりも、日本詩文書協会とも縁が深く、書に対しても造詣の深い先生です。

演題は「書がひらく未来—言葉の力・文字の魅力」、まず、先生がご覧になる書の表情・魅力などから始まり、種々の作品を通じる匂い・潤い・緊張感によってご自身が拓かれる体験が語られました。また、詩文書を見ると、活字とは別の人間性によって詩が蘇る。さらに翻訳は、詩の原文を読みといて、精神や思想、世界観を含めて表現する……等々、私たちの臨書に近い視点も話され、最後に仏語での詩の朗説もして下さいました。慣れない難しい内容でしたが、ひと時、言葉や文字について改めて考えさせられたことだと思います。

第77回書道芸術院展・第75回記念全国学生書道展について(研究会・表彰式・講演会・ワークショップなど)、人事について(昇格・移籍・退会など)、新会員についてを審議しました。

第77回書道芸術院展の「評論家の眼」は、太田文子・横田恭三先生となりました。他には、令和6年度単位認定講習会の運営についてや、秋季展・第2回企画委員会なども報告されました。

今年度第3回通常理事会が11月23日に開催されました。

第77回書道芸術院展・第75回記念全国学生書道展について(研究会・表彰式・講演会・ワークショップなど)、人事について(昇格・移籍・退会など)、新会員についてを審議しました。

今年度第3回通常理事会が11月23日に開催されました。



創立記念日講演会風景
講師は吉田加南子先生

現代詩文書基礎基本講座(43)

小竹石雲

◆西狭頌

①写実的臨書



【西狭頌】後漢（171年）

甘肅省成県の西10km、魚竊峽に現存する摩崖。李翕の修復による功績を称えた刻石である。仇靖の書丹による八分隸である。

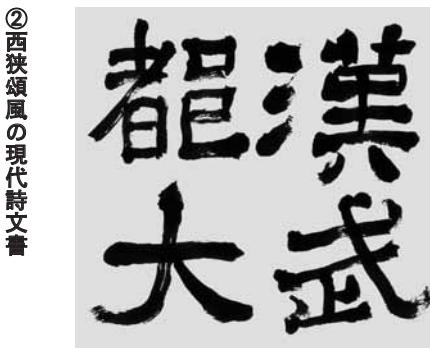
▽特徴

方形でゆったりとした結構で、寛博遡古の語で評されているように、素朴でたくましく野趣に富んでいる。

▽臨書にあたって

- 雄大さ、たくましさを表現するため
- やや大きめの羊毛長鋒を使用。
- 藏鋒を根本におき、ねじれ押し出す

△西狭頌風の現代詩文書



前衛書基礎基本講座(19)

千葉蒼玄

書は古典を臨書し、習得したものを使い作品として仕上げていく。前衛書も古典を拒否するわけではなく、その要素特徴を作品に生かしている。前回まで文字造形の変化から作品を作ったが、過去の書道芸術院の作品を振り返ってみたい。

大澤雅休先生は、前衛書を切り拓いた作家であるが、初期の作品が篆書からの手探りであったことは、前衛書の進化と発展において重要な要素であった。

①の作品「洞中仙艸」(1951年制作)は、篆書の造形を使いながら長鋒の筆により水の中の草がしなやかに漂う様子を表現している。それまでの篆書という概念を取り去り、文字のもつ意味から造形を作り出している。

②「黒獄黒谿」(1953年制作)は、現在であれば漢字として十分に通用する作品であるが、文字の意味を篆書の造形を使って表現した。それでも漢字作品は文字を紙面いっぱいに書くということはなかつたが、篆刻からの影響もうかがえる。なお、この作品は「日展の書風に合わない」という理由で陳列を拒否された。



「おかしいぞ地球が壊れる(天変地異では終わらない) 前田孝一詩
かりつけた。

- 大字はゆるぎない生命感と広がりをもたせるべく、墨の潤滑の変化をしつかりつけた。

①「洞中仙草」1951年 ②「黒獄黒谿(回文)」1953年

第77回書道芸術院展

併催=第75回記念全国学生書道展

会期：令和6年2月6日(火)～11日(日・祝)

9:30～17:30（入場は30分前まで）※11日(日・祝)は14:00閉室

会場：東京都美術館（上野公園内）

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 TEL 03-3823-6921(代表)

主催：公益財団法人 書道芸術院

後援：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社
(一財)毎日書道会

《表彰式》令和6年2月10日(土) 15:30～（受付15:00～）

浅草橋ヒューリックホール

《作品解説会》東京都美術館展示会場

・令和6年2月6日(火) 14:00～ 秋季展推薦作家を中心に

・令和6年2月11日(日・祝) 10:30～ 役員作品・無鑑査・一般作品

※祝賀会は中止

第75回記念全国学生書道展

・全国学生書道展指導者作品展示

会期：令和6年2月6日(火)～11日(日・祝)

9:30～17:30（入場は30分前まで）※11日(日・祝)は14:00閉室

会場：東京都美術館（上野公園内）学生展展示2階 第2展示室

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 TEL 03-3823-6921(代表)

主催：公益財団法人 書道芸術院

後援：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社
(一財)毎日書道会・毎日小学生新聞

《席上揮毫会》令和6年2月10日(土) 10:00～

東京都美術館学生展会場

《表彰式》令和6年2月10日(土) 13:00～（受付12:00～）

浅草橋ヒューリックホール

《ワークショップ》令和6年2月11日(日・祝) 10:00～

学生展展示会場

《講演会》令和6年2月11日(日・祝) 10:00～ スタジオ

九成宮醴泉銘（唐・歐陽詢）③

漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

※動画が院のホームページから見られます。

特別研究部臨書課題

II (A・本作の部 每日晨晝晉・晉サズヒル 2×6尺・金額も可)
B・小品の部 半切以上半切以内 金額以内も可 (A・B縦横旨思) 部分以外も可



(三井記念美術館蔵)

(掲載図版・80%に縮小)

<解説>

学書の方法として、同質のものを追求していくやり方、逆に異質なものに取り組んで多くの筆法を身につけていくやり方がある。自分の学習の段階に応じて使い分けていくと効果的である。

後者なら、唐の四大家に順次挑戦していくことになり、前者なら、隋の「蘇孝慈墓誌銘」や詢の息子である歐陽通の「道因法師碑」を選ぶか、詢の別の楷書碑に進むことになる。ここでは残りの3つの碑の特徴を挙げておきたい。

①化度寺碑(631年)：詢75歳
筆の勢いや心の躍動を抑えた
おだやかな書きぶり。

②溫彥博碑(637年)：詢81歳

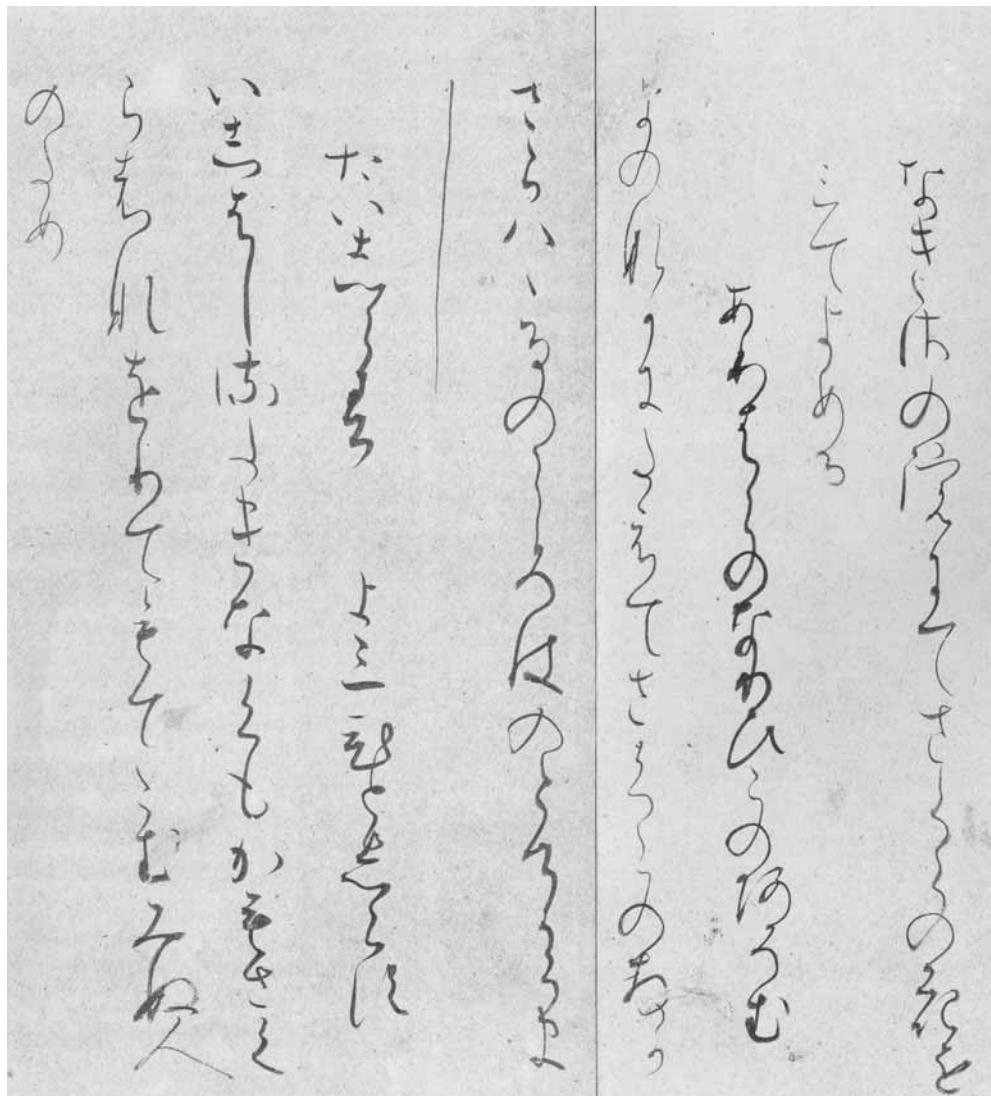
老筆とは思えない気力の充実した書。他の3つの碑と比べると最も中間的。

③皇甫誕碑：制作年不詳

細身で右上がりの線が強く、字形が緊密。北朝系の影響が強い。

居崇茅宇。樂不／般遊。黃屋非貴。／天下爲憂。人玩／其華。我取其實。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)



よみなぎさの院にてさくらの花を
みてよめる
ありはらなりひらのあそむ
すてよめる
よのなかにたえてさくらのさか可
さらばるのこゝろはのどけからま
し
だい志
だい志らづよみひとしらづ
い志者
い志者那毛
らばなをりてもてこむみぬ人
のため

解説 関戸本古今集の書風は、現代のかな書道に取り入れやすいという特徴があるため、好んで学ばれている。高野切第一種や第三種を学んでかな基礎を身につけた後の学習対象として格好のものである。この書風に自分の個性を上手に加えてゆくのが理想である。 今月の課題は、中央の「し」に苦労しそうである。穂先を下方から藏鋒気味に入れるなど、そのあと微妙な線のゆれが表現しやすくなる。
また、線が消えている箇所や汚れに注意して下さい。4行目は動画をご覧いただけないと幸いです。

(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ也可)

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌1首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

- A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、 2×6 尺・全紙も可
 B. 小品の部=半切 $\frac{1}{2}$ 以上、半切以内(縦横自由)・全紙 $\frac{1}{2}$ 以内も可
 <いずれも上記の掲載以外も可。>

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

(P.46に原寸図版があります)
※掲載図版・70%に縮小

小浜大明

聽雪添詩思
(李建勳)
雪を聴いて
詩思を添う

雪の降る静かな音を聞いている
と詩情がわいてくる。

聽
雪
添

大
明



詩
思

聽
歌

聽雪添詩思 よみ(雪を聴いて 詩思を添う)

書体=自由

詩思
大明

編集部に「もう少し深く隸書を
勉強したい」という声が届いたと
伺い、今月も隸書を書いてみまし
た。筆路を明確にすることに意を
注ぎましたので、これに各自で工
夫を加えてみて下さい。また、日
頃から古典の臨書に励むことも重
要です。漢碑や清の諸家から学び
取りましょう。

なお、行草作品も参考に載せま
したのでご活用下さい。

〈参考〉

習い方解説 (3)

西川翠嵐

地平天成
（書經「大禹謨」）
(地平らかに天成る)

世の中が平穏で、天地が治まる
こと



今は、楷書を書く上で大切な
「三過折」についてご説明します。
「三過折又は三折法」とはいわゆ
る「トン・スー・トン」という筆
の運び方で、「起筆・送筆・終筆」
と言いかえることもあります。1
本の横線にも、もちろん縦線にも
この「三過折」がかくされていま
す。楷書は真っ直ぐな線で、と言つ
ても定規をあてて引いたような線
では良い文字にはなりません。
「平」の横画、「天」の左右のはら
いはもちろんのこと「地」の6画
目の「浮鷺」も「成」の4画目の
「戈法」にもあてはまります。生
き生きとした線を目指して下さい。

地平天成 よみ(地平らかに天成る)

書体=楷書

松村くに子

冬枯れのすさまじげなる山里に
月のすむこそあはれなりけれ

(西行)

冬、草木の葉が、すっかり枯れ
果てて寒々とした山里に、月だけ
がくっきりと澄みわたっている光
景は、まことに趣があることよ」

冬
枯
れ
の
す
さ
ま
じ
げ
な
る
山
里
に
月
の
す
む
こ
そ
あ
は
れ
な
り
け
れ

今回の歌には「れ」が3回出でます。それぞれ違う表情にしたいものです。前後左右の文字、行間などを考慮して、その場所に合った形の文字を選ぶことが大切です。4行目、右側の余白を生かすため「れ」にしました。また、5行目ですが、動きの大きい前の行になじむ「連」にして寄り添わせました。

墨継ぎですが、特に行間の狭い時の行頭は避けましょう。行の途中で継ぐ方が、変化が出て立体感が生まれます。

(注)参考手本の墨継ぎは4行目の
「阿」です。

よみ方 冬枯れ(連)のす(春)さ(佐)ま(万)じげ(遣)な(那)る山里(ざと)に(1)月の(能)
すむこそ(所)あ(阿)は(者)れな(奈)りけ(希)れ(連)

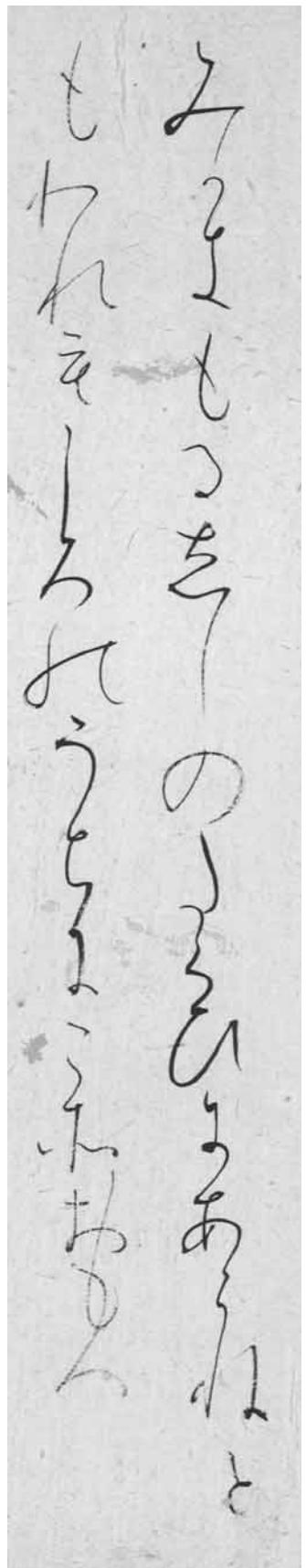
創作

*料紙は半紙版 33.0×24.5 cm)を使用しましょう。

かな規定 秀級以下 【1月15日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。) 〈注〉署名は「〇〇臨」として下さい。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 みか(可)き(支)もあるゑじのた(多)く(久)ひに(尔)あらねど
もわれも(毛)こゝろの(能)うちに(尔)こそ(所)おもへ

歌意 禁中の御垣を守る衛士のたく火ではないけれど、私も「思ひ」という
火を心の中に燃やしてあの人を思っています。

かな条幅規定【1月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

佐藤 希雲 選書

習い方解説 (3)

佐 藤 希 雲

初富士のかなしきまでに遠きかな

(山口青邨)



よみ方 初富士のかな(奈)しきま(万)で(傳)に(一)遠(と本)き(支)か(可)な(那)

*タテ形式に限る

創作

漢字3文字から始めて、まん中に「し」を置きタテに伸ばします。2行目の「と」で墨継ぎをして、1行目にぶつける気持ちで右に流してまとめます。「本支可那」と変体がなで4字連綿にしてみました。また「富士」の漢字の連綿は難しければ離してもよいと思いま

漢字条幅規定 初段以上 【1月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

習い方解説 (3)

名 越 蒼 竹



春城無處不飛花 寒食東風御柳斜 (韓翃)

(春城^{じゅんじょう}として飛花^{ひか}ならざるは無し。寒食東風御柳^{ごりょう}斜めなり。)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下 【1月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

飯沼恵鳳選書

習い方解説 (3)

飯 沼 恵 鳳

今日は、行書体で書きました。

大意は、「雑事を避けて気力を養う」です。長峰を軽快に運筆し、細太、潤渴、連速等の変化を加味し、細線ながらも筆意・筆勢を失わないように心がけました。羊毛濃墨による基本的な用筆法を学ぶ資料として、私は「書のメソッド用筆法の科学」を推薦します。

簡事養精神
(事を簡にして精神を養う)
(陸游)

書体=自由

清朝も落ち着きを見せるようになると、明末に生まれたロマンチズムから典型への志向が強まるようになります。その中で最も優れていたのが劉墉でしょう。ぱっと見せると、大粒の文字がアクセントを見せていて、線質を似せるには表面が滑らかな紙が適しています。

習い方解説 (3)

倉林紅瑠

澄みゆく水に秋秋垂れ
玉なす露はすすきに満つ

思ひば似たり故郷の野辺

あゝわが兄弟たれと遊ぶ

「故郷の空」より 紅瑠書

書体=自由

- ◇用紙 ハガキ大 ($14.8 \times 10\text{ cm}$) の白紙を使用
- ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

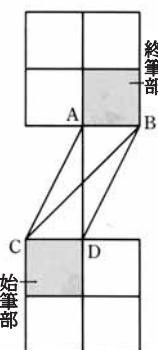
用紙の大きさはいつまでも見られます。
用紙サイズ(ハガキ大 $14.8 \times 10\text{ cm}$)を守って下さい。

澄みゆく水に 秋秋垂れ
玉なす露は すすきに満つ
思ひば似たり 故郷の野辺
あゝわが兄弟たれと遊ぶ
「故郷の空」より ○○書

「故郷の空」は大和田建樹作詞、原曲はスコットランド民謡「ライ麦畑を通って」で、明治21年(1888)「明治唱歌集」に発表され、広く歌い継がれてきました。歌には故郷を懐かしく思う気持ちがこめられています。

◇「平がな」の基本—連綿①—

1字ずつ書かれた文字を単体というのに対し、2字以上文字を続けて書くことを連綿といいます。連綿には形連(連綿線でつながっている)と意連(連綿線でつながっていないが、筆脈が通っている)があります。個々の平がなは、左上部で始まり、右下部で終わるものが多い(「お」「む」は例外)。連綿とは、上の字の終筆部と下の字の始筆部とをつなぐことです。



右の図で、最も続けやすいのは A—D、次いで A—C と B—D であり、最も長い連綿線が必要なのは B—C です。この A B C D の範囲で、連綿線の長さと方向に留意し、無理なく自然に続けることが連綿の重要なポイントです。次号では、連綿方法のパターンを具体的に解説します。

迎春

皆様のご健康とご多幸を

お祈り申し上げます

令和六年元旦

平川峰子

迎春／皆様のご健康とご多幸を／お祈り申し上げます／令和六年元旦

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る

今月のホープ作品。各部総評

NO.750

漢字部 師範 諸岡 百雲

柔らかい線が暢びやか。漢碑、

漢簡の書法に習熟した技量が窺え

る。温雅でゆったりとした八分隸。

◎漢字部総評 上級は上質で、様々

な隸書作品が多数見られたが、隸

法に未熟な作もあった。幅広く、

より深い学書を期待。(萬城評)

漢字条幅部 師範 三浦 小樹

気迫の籠った筆線が縦横に躍動

する。要所での表現の制御が働き

格調の高い作品に仕上がる。



◎漢字条幅部総評 参考手本を範

とした出書が多かった。行草での

章法に自分なりの工夫を加味すれ

ばもっと幅が広がる。(石雲評)



現代詩文書部 特選 三浦 英樹

この詞の持つ、ものの哀れとひ

そやかな夢を淡々とした2行書き

が語っているように感じられた。

◎現代詩文書部総評 線のゆらぎ、

しづもり等一本の線の追求をして

いって下さい。

(掃雪評)



かな部 師範 片桐 桃代

範例をよく見て自然に書き上げ

た佳作。字形・リズム・墨色とも

見事に調和した。印が少々大きい。

◎かな部総評 湾曲した立てが

難しかったようですが、右側の余

白を生かすかな独特の流れです。

掴めた方も多い。(洋子評)



前衛書部 特選 高山 琢翠

緻密に計算された中に適度の搖

れを含んだ濃い渴筆が響いて、独

創的な作品になりました。

◎前衛書部総評 久々に墨を縦横

に駆使した作品が多く皆さんのレ

ベルアップを感じました。

(慧香評)

ペン字部 師範 中原 純子

適度な筆圧によって表現された練

度の高い線はまるで毛筆のよう。布

置もよく、深みのある格調高い作品。

◎ペン字部総評 漢字とかなのバ

ランスを考慮し、行書体の自然な

流れを表現した作品が多かった。

(孝子評)

唄を忘れた金糸雀は
象牙の船に銀の櫻
月夜の海に浮へれば
忘れた唄をおひいだす

西條八十がなりや(純子書)

実用書優秀作品

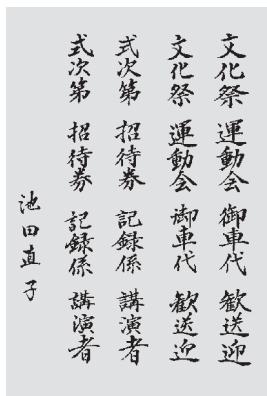
選評 西川翠嵐

◎実用書部総評

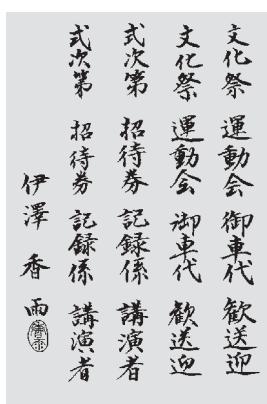
小筆は穂先をよく整えてきれいな起筆として、しっかり筆圧を加えました。
全体として弱々しい作品は輝いてきません。

(翠嵐評)

やわらかな起筆、すっきりとした
横書きが文字を美しく見せています。



ゆったりとして力強い筆運びで、
瑞々しい線となりました。



蒼若深高洞千紅葉瑠	竹宗もく秋有秀平汀	紅瑠	水堅松	高真こだ	水堅松	特選
大眞苑葉瑠	もく秋有秀平汀	紅瑠	高深大	伊澤池田	高深大	
工久藤安安相澤	横茂木本郷藤川	笨坂井上利	多胡岩上	北爪千利	北爪千利	
久藤安安相澤	横茂木本郷藤川	高橋井上利	藍澤岩上	多胡千利	北爪千利	
宏山香久楊叙敦子	蘭絢谷千睦月初英二	啓白珠	郁子千代	和美香直子	和美香直子	
子房奈子楊叙敦子	蘭舟水惠春月初英二	啓白珠	郁子千代	和美香直子	和美香直子	
紅瑠	澄書青た八吉岡和	竹原誠	楓玉紅春城大	深若美大	深若美大	
江光雲月蘭瑠	遊蓮か八街	竹原誠	翠瑠	翠瑠	翠瑠	
須水佐佐鶯小栗原久	浮須口伊藤関崎	池田	吉田	吉田	吉田	
佐藤山林	井ノ口伊藤関崎	田	福田	福田	福田	
香蕙祥光美嘉江舟	春峰照子美惠雨	俊美	玉裕	美岐	岐城	
扇耀梢りりか	朱星康彰	俊美	裕	春城	春城	
蘭瑠	華蓮八白澄紅	瑠秀	水耕	深若美大	深若美大	
(選外)	春露街	瑠明韻	立	葉千瑠	葉千瑠	
384名氏名略	華仙紅八三松	松深廣平	土永中	田千田	田千田	
楓枝	瀬重柳	植澤	永土	竹高岡	竹高岡	
和豊華香樹生	小峰陽華佳	野井山屋	土野	山野井	山野井	
名略	泉月紫音	田玉浪	田玉浪	山田	山田	
名略	莉奈子	百秀	山百	山秀	山秀	
名略	柳順文	哲合	木合	木合	木合	
名略	恵仙香子	子舟	秋秋	秋秋	秋秋	

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



朱裕千弘久子

喜代美翠
淡墨の豊かな世界魅力的
凝縮した文字群。見事
運筆光りドラマを感じる

萩雄浩葵
みえ子

喜代美翠
淡墨の豊かな世界魅力的
凝縮した文字群。見事
運筆光りドラマを感じる

千喜奎泰舟

喜代美翠
淡墨の豊かな世界魅力的
凝縮した文字群。見事
運筆光りドラマを感じる

京俊裕子

喜代美翠
淡墨の豊かな世界魅力的
凝縮した文字群。見事
運筆光りドラマを感じる

恵美芳杏彩
泉梢

喜代美翠
淡墨の豊かな世界魅力的
凝縮した文字群。見事
運筆光りドラマを感じる

選評 山崎掃雪
喜代美翠
淡墨の豊かな世界魅力的
凝縮した文字群。見事
運筆光りドラマを感じる

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 石井明子 半田藤扇 山口仙草

小品の部

漢字 (水茎)

中野柳明
「楓橋夜泊」

臨書 (若葉)
工藤山房
「九成宮醴泉銘」

皇帝避暑乎九成之宮此
殿絕壑為池跨水架楹兮抗此
136×35cm

工藤山房臨

中野柳明書



135×35cm

◆ 14文字、基本的な構成の
条幅作品。歯切れのよい運
筆で文字の変化とリズムを
醸し出す。雰囲気のある大
らかな冴えた作。(藤扇評)

前衛書 (声香)

尾河紗香
「落葉」



◆ 濃墨の強韌な書線は紙
面を圧倒する。構成もす
ばらしく渴筆、飛沫も効
果的に雄大な作となつた。
(仙草評)

現代詩文書 (植松)

梅田紅雨 「聖子の句」



梅田紅雨書

56×66.5cm

◆ 一見無造作に引か
れた縦画と、細目の
シャープな切れ味の
よい横画が相俟つて
現代的素朴性が表現
され、周囲の余白を
一層際立たせている。
(石雲評)

◆ 安定した九成宮醴泉銘で
運筆とともに、纏まる。迷
いのない原本に忠実な作と
なつた。落款の布置に一考
されると更に格調高い作と
なつたであろう。(藤扇評)

上「小一澄蒼竹紅洞華たか
京なか映弦春原美瑠書祥か
早豊早土谷横原安加浜
部嶋坂屋津山島藤藤野
萌恵昌蘭春鶴雅永
朗勝香仙弘舟汀風芳篁

漢字 (臨書の部)
大秀前衛
「和苑橋拙香」
佐坂藤井
誠宗京大花
「和苑橋拙香」
石茂田畠藤
崎木中中井
「和苑橋拙香」
桜潮音苗代
「かな」及川
「かな」豊流
「かな」齊藤
佳恵邑
甘絢一成花
雨水葉山香
龍仙

（特選候補者）
（創作の部）
「漢字」
「前衛」
「佐坂」
「誠宗」
「和苑橋拙香」
「大花」
「和苑橋拙香」
「石茂田畠藤」
「崎木中中井」
「和苑橋拙香」
「桜潮音苗代」
「「かな」及川」
「「かな」豊流」
「「かな」齊藤」
「佳恵邑」
「甘絢一成花」
「雨水葉山香」
「龍仙」

総出品点数
78点

創作の部 (39点)
臨書の部 (39点)
漢字 1点
前衛 1点
かな 5点
現代 20点
かなか 20点
漢字 1点
前衛 8点
かな 5点
現代 20点
かなか 20点
漢字 1点
前衛 1点
かな 5点
現代 20点
かなか 20点

（小品の部）

大作の部

相澤敦子 「九成宮醴泉銘」

九成宮醴泉銘
祕書監檢校侍中鉅鹿郡公臣魏徵奉勅撰
雜貞觀六年夏之月皇帝避暑乎九成之宮此則隨之仁壽
宮也冠山拔殿絕巒為池跨水架橋分瓈珠閣高閣周連長廊四
起棟宇勝葛臺樹參差仰視則遙邇百尋下臨則峰巒千仞珠群
交暉金碧相暉照灼雲霞蔽蔚日月觀其移山迴澗窮泰極侈以
人從欲足之深至於美景沃金無鬱蒸之氣微風徐動有淒清
之涼信安體之佳所誠養神之勝地漢之甘泉不能尚也
皇帝爰在弱冠經營四方進乎立年撫臨億兆始以武功壹海內
終以文德懷遠人東越青丘南踰丹徼皆獻琛奉贊重譯來王西
暨輪臺北拒玉闕並地列州縣人充編戶氣潤年和淳安遠肅群
生成遂靈肥卑臻雖藉二儀之功終資一人憲遺身利物揚風沐
雨百姓為心憂勞成疾同堯肌之如腊甚禹足之胼胝

敦子記



前衛書

(松風)

西條松雲 「晚秋」

◆終始一貫した線質で、筆力、気力と巧みなタッチで書き進む。楷書の極則と称される見事な作品となつた。
(藤扇評)

西條松雲書

◆新鮮で流動的な作。躍動する筆致が心に響き潤滑も配置され、明るく魅力的作品となつた。
(仙草評)

相澤敦子臨
もくせい 現代詩文書

180×60cm

135×70cm

西川藤象 「郷愁—北原白秋詩」



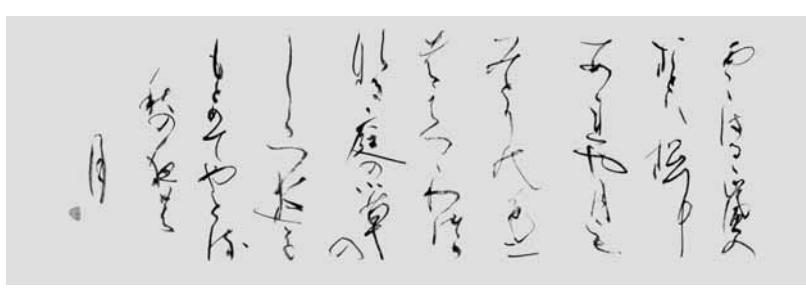
西川藤象書

45×175cm

◆詩情溢れる展開に心惹かれる作。やや硬めの筆を巧み繰り、静かな線条を醸し出して余白の美しい作に仕上がる。

(石雲評)

◆山家集の大膽な展開は美事である。その中に繊細さが伺え、愛おしい気持になる。墨つぎ後にやや違和感があるのは何故?
(明子評)



清水蘭舟書

60×180cm

かな
(水茎)
清水蘭舟
「山家集より」

かな

漢字

舟

創作の部
(36点)

漢字
かな
現代

創作の部
(36点)

漢字
かな
現代

漢字研究部
(九成宮醴泉銘)

選評 片岡豪峰

今月のホープ作品



相澤敦子

漢字研究部特選 相澤敦子
九成宮醴泉銘の特徴をよく觀察し、充実した線で中細字にまとめられています。楷書の臨書は気が緩むと字形や線に歪みがでてしまうのですが、この作はよく緊張感がたもたれていて見ごたえのある臨書になっています。

◎漢字研究部総評

漢字研究部には毎回100点を越える作品が出品されます。今回より九成宮醴泉銘にな

り、楷書でも特に細心の注意を払う必要のある古典のため苦労された出品者も多かったかと思います。この古典は始筆の角度、線の方向、字形など注意すべき所が多々あります。筆の勢いにまかせて書いてしまうと別の雰囲気になってしまふことが懸念されます。古典に向き合う際に、その古典の書かれた背景まで心を配つて学ぶ姿勢を持つて下さい。
(豪峰評)



美紫博玲美勝

藤亞美光麻早

明藍谷恵紅

青聖天和芳友香里湖

美紫博玲美勝

藤亞美光麻早

明藍谷恵紅

青聖天和芳友香里湖

梢炎美子世

連希楓葉矢紀

翠香水惠美雲

朋翔美博

選評 福田令子

今月のホープ作品



美伯信
代
子 泉代

正恵和
子 美子

白和紀
桃美舟

香
朗
舟

かな研究部特選		田	畠	寿美子
正誠た八大土清 華和か街雲氣月秀	一こ一清蓮清書高白高上和紅書惠上樹清紅書竹菊上紅 心だ心月紅月游崎珠崎泉平風泉泉原月瑠璃泉美月泉瑠	特選	田	畠
岡鶴岩井磯五飯島 田澤嶋ノ貝十島口	石山小木本小酒西小萩井船永渡根萬境藍七八新早須田 森根坂暮田林寺み上津井邊岸野澤五三木橋紀香美子		畠	寿美子
麻琴葦春清葉美舟 葵峰耀德子	博美素純美嘉よし知葵加洋英代伯信正恵和白和美舟子朗舟	田	畠	寿美子
春汀佳	華八如中大墨生澄長青高上立や有清竜見白四澄明華春蕙潮遊こ 仙街月雲宣大春月蓮崎泉精ま秋月泉瑠越露谷春漢祥汀書音山だ	上泉		
上利作	山村武三三真藤深原沼二中千田武竹高高闊春鈴杉新島佐佐坂齋紹北叶柏 上藤田浦庭本澤澤田通村田玉山澤山橋木口原本木浦行茂々本藤野爪野柏	内木		
啓子	雪房房蒼道喜吾典奎麗ゲ白哲花恒い雅合芳慶白幸瑞美明和里杏遊美洋和 翠月枝舟子ミ恵月子心子子香子源子子枝子鷺子華子祥子美邑山和子			
楓一松 会心村入	東無高玉一春幽華大高華一麗玉も大水一わ春玉天沙幕竹八玉蒼春大芳梓樹一東春正大玄高こ澄八森福う 伯門崎川弦江光仙雲井祥弦澤松く雲堅草か汀松璋莉張屬生川風汀雪蘭江原だ花弦向汀華阪穹井だ春街山る			
浅秋青 井葉木	山山矢森村富樹前堀星橋早濱長橋西名永中都渡田田瀧高瀬篠佐笛佐齋奇近小小工菅河金荻尾樺梅植石池池飯 本中口田上野見川切野口坂鳩谷本取井村丸子中口橋尾田藤木々山藤代藤崎千子藤野田田形田原田渡田崎高			
和ミ玉枝 紀玉江惠枝	真清登峻智眞 風仙雲紀葉朋幸翠霞象袖子琴理子衣子子雲子奈風子梢彩華子子香代子優風霞子祥雨径子美生			
玉日麗川 新澤	伊富薺八秀大光聖素泰蒼秀祥薺華青士大わ附こ大書旭澄大青明秀薺華高た土清一わ久一誠日堺正あ薺こ水京 呂貴湖雲敵拙形雪香湯飲紫湖仙湖氣雲か中こ雲泉老春阪昭明漢韻書桃真氣心か賀心和新華か湖だ海橋			
閑閑須鉛管下七椎佐藤佐坂小熊木北布菊川川河鎌金加片加加鏡小尾小小岡大梅梅白牛字印岩岩入石石石池五飯東				
根、藤木木原村條名藤田久木木井下村鳩地元崎崎合塚城藤山岡瀬瀬治野仲澤涼村西山津井久佐東渕田谷橋田川井治十泉				
美惠美萩睦英昌日裕光陽龍洋芳泰宏壽志薺憲茱乃一和す智翠蕙照晴夏佳朱珠和礼紀一代綾雅安正祥美悠嘉悦津玲朱佳洋花子子雨心晴子香美子子貞子博香子子湖水仙佳人敬さ子陽風德美峰理星季子子美子子乃奈惠苑世花子子音栄子子				
千芳春こ明昌蓮華幸青や明華椿あ声華文八白梓千高澄上も祥橋高祥高正の白一泉洞誉天小白堺祥掃四華玉若澄甲華竹 遷漏蘭汀だ漢苑紅仙扇蓮ま香翠翠か香祥月街露江葉真春泉く紫雅崎紫真華か露心会書田				
127渡渡吉吉吉遊山山山矢柳安本宮三三松松增本船藤藤廣林浜野錦永中中中中中中豐富利敷津丹竹高高高高高 名迈邊野田千子木本崎口部瀨吉内澤浦浦村永重尾田多鄉木原田田瀨野口織田村野里里江嶋澤守賀田井原橋藤木井				
名泰信貞彩鶴翠紅美梅律香秀砂明成智真小陽珠翠希華和谷悦瑩祐雅幸美永美さ時寛美亮星より佳美李美香貞美幸松昭小 略埃溪子祥子綾雅楓香蕙子苑華子香子翠樹子鈴景子秀枝蕙子子章枝子莖子子子子子子勝雲理蕙花枝華子子苑美華秋				

◎かな研究部総評
变幻自在な関戸本古今集の多様性を理解して、少しでも多くのことを修得できるよう、まずは原本をしっかりと観察してから、臨書してほしいと思います。

(令子評)

墨量の多いネバリのある線質と、優しくおだやかな部分との変化を、豊かに表現できています。平素より、良く臨書に向き合われていると思われます。

かな研究部特選 田 畠 寿美子

かな研究部成績表

書

展

第24回書道芸術院 九州支局展開催

【下谷理事長をお迎えしての
「かな講習会】】



下谷理事長の御挨拶

懇切丁寧に解説していただき、大変参考になりました。

会期＝5年9月15日(金)
～18日(月・祝)
会場＝コスメイト行橋

九州支局は毎年独自に支局展を開催し、今年で24回を迎えました。会員は福岡県・大分県在住者で80名いますが、今回は65名が出品し、内訳は漢字43点、かな3点、現代詩文書18点、刻字1点でした。会場の中心に辻元前理事長、下谷理事長、小竹常務理事、後藤常務理事の先生方の作品も展示させていただきました。コロナウイルスの影響もあり、久しぶりの開催ということで作りが揃いました。地元の行橋市の応援を得て、NHKや毎日新聞、西日本新聞の報道もあり、多くの方々に見ていただくことができました。「開催してよかったです」という会員の声も多く聞かれ、次年度25回記念展に向けて研鑽に励もうということで気持ちを新たにしました。

今回は下谷理事長をお招きし、先生の作品解説の時間も設定しました。会員の作品について、その良い点や課題を「やさしさ」と「きびしさ」を交え

全国の支局に書のさらなる技術向上と芸術院の理念の浸透を目指すという本部の方針のもと、支局展開催に合った。参加者が「かな」に興味・関心をいだいたようです。九州の地にかながもっと盛んになるよう願っております。あらためて感謝いたします。ありがとうございました。

(文責 九州支局事務局長 児玉船光)



会場風景

半紙に書くときの上下、左右の空間。行頭、行尾、行間の処理。半切での実技では連綿と間のとり方を考慮した揮毫。最後に持参した個人ごとの作品添削に移りました。非常に丁寧な御指導をいただきましたので、予定した2時間があつという間に過ぎてしまいました。参加者の声に、「かなにはまりそう」「漢字の筆遣いと共通点がある」「身近で書ける」「こんな近くで見られたので参考になった」「もう一度このような機会があるとよい」などがありました。下谷理事長のお陰で多くの参加者が「かな」に興味・関心をいだいたようです。九州の地にかながもっと盛んになるよう願っております。あらためて感謝いたします。ありがとうございました。



半切の模範揮毫



半紙に書く場合のポイント説明

半紙に書くときの上下、左右の空間。行頭、行尾、行間の処理。半切での実技では連綿と間のとり方を考慮した揮毫。最後に持参した個人ごとの作品添削に移りました。非常に丁寧な御指導をいただきましたので、予定した2時間があつという間に過ぎてしまいました。参加者の声に、「かなにはまりそう」「漢字の筆遣いと共通点がある」「身近で書ける」「こんな近くで見られたので参考になった」「もう一度このような機会があるとよい」などがありました。下谷理事長のお陰で多くの参加者が「かな」に興味・関心をいだいたようです。九州の地にかながもっと盛んになるよう願っております。あらためて感謝いたします。ありがとうございました。

おめでとうございます

祝 児玉範光先生

—令和5年度文部科学大臣感謝状受賞—

(令和5年10月19日)



書道芸術院展常任総務
漢字部審査会員

本院常任総務兒玉範光先生は、永年に渡り小学校校長として学校教育振興への貢献が高く評価され、令和5年度文部科学大臣感謝状を贈られました。心よりお祝い申し上げます。

祝 大石仙岳先生

—富山県功労表彰受賞—

(令和5年11月3日)

・(公財)書道芸術院評議員
前衛書部審査会員

本院評議員大石仙岳先生は、多年に渡り幾多の優れた作品を制作するとともに、関係団体の要職にあって、後進の指導に尽力するなど、芸術文化の振興に貢献された功績により、富山県功労表彰を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

各種申請用紙は、事務所までご請求ください。
指定形式以外の申し込みは、お受けできません。また、バーコード出品券に訂正されても変更できませんので、必ず手続きをして下さい。

お願い事項

※「書道藝術」

競書出品するためには、バーコード出品券が必要です。

○新規登録（無料）

○再発行申請（有料：500円分切手）
紛失・破損・支部・氏号変更

○登録内容変更（無料）

住所・電話番号変更・指導者名
変更

予告

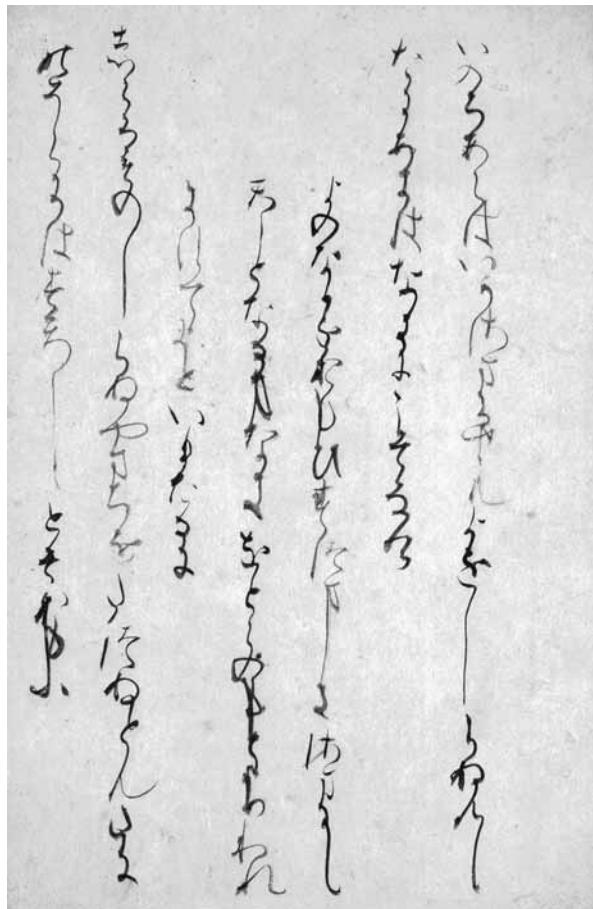
2024・1月号(753)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

(2月15日締切)

古筆鑑賞

238

和泉式部続集切 (伝 藤原行成筆) ①



(掲載図版・60%に縮小)

いのちあらばいかさまにせむよをしら
ぬむし／だにあきはなきにこそなけ
よのなかをおもひすつまじきさまにし
てことなる事なきをとこのもとより
われ／にてよといひたるに／しらく
ものしらぬやまぢをたづぬともたに
のそこにはすてじとぞおもふ

古典鑑賞

464

蜀素帖 (宋・米芾) ①



(掲載図版・70%に縮小)

●篆刻

【1月15日締め切り】

〈出品規定〉

- ① 案刻 (ア) 課題による語句
 (イ) 原印自由
 (出品の際、原印のコピー添付)
- ② 創作 語句自由

〈原印コピー〉



「七十歲以後書」

12月号 案刻課題

- 印面の大きさは3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 応募は①か②のどちらかとする。

750号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
 東京都千代田区
 東神田1-16-7
 東神田プラザビル3階
 101-0031

公益財団法人書道芸術院

案刻特選 庄司櫻空



「吳讓之氏」

細部にわたって運刀の佳さが目に付きました。非常に丁寧です。

選評 後藤大峰

公益財団法人書道芸術院

電話(03)3862-1954
 FAX(03)3862-1957

(案刻)特選
蒼原庄司櫻空

(創作)特選
やま橋本清麗

秀作(50音順)
 大琴小沢華仙
 新栄寺幸喜
 加藤万丈
 鷺山美梢

秀作(50音順)
 北日生雲
 幕張平塚
 片岡青沙
 成田豪峰
 須賀澤由香
 生吉原能喜

唯一作(50音順)
 生大藤井
 崑島龍仙
 粽仙義則
 趙雲覚山
 游水吉田
 荒川恵弦
 文庵華所

慈空坂本
 赤星吉田
 篠田惠弦
 文庵華所

ご連絡等は
 月曜日～金曜日
 10時～16時
 の間に
 お願いいたします。
 (土・日・祝日は休み)



「一拳両得」

創作特選 橋本清麗
 「一拳両得」
 の4文字、確
 実に布字して
 製作された。
 好作品。
 (大峰評)

今月の注目作



「養拙」

逢沢唯一

定価 1部

七五〇円

令和五年十一月二十五日印刷
 令和五年十二月一日発行

編集兼 下 谷 洋 子

印 刷 データ処理

発行所

株式会社 リンクス

小沢写真印刷株式会社

公益財団法人書道芸術院

東京都千代田区東神田1-16-7

電話(03)3862-1954

FAX(03)3862-1957

振替 00150-4-1350558

ホームページ
 http://www.linos.co.jp/shogei/

- 用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。
- 出品方法

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
 令和五年十一月二十五日印 刷
 行 発 行
 令和五年十二月一日

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七五二号